

見た目は似ていても…

ギョウジャニンニクとイヌサフラン (有毒)

実際にあった事例

葉をギョウジャニンニク、ミョウガやギボウシと間違えて食べたり、球根(鱗茎)をタマネギやジャガイモと間違えて食べてしまい中毒を起こした事例があります。

重症の場合、死亡することもあります。



ギョウジャニンニクの芽生え

葉をもむとニンニク様の強い臭いがあります。



イヌサフランの芽生え

イヌサフランの芽には、臭いはありません。



ギョウジャニンニクの葉

葉は通常、1芽から1~2枚(まれに3枚)しか出ません。葉は楕円形または狭楕円形で基部が次第に細くなっています。



イヌサフランの葉

多数の大きな葉が互いに重なりあって出ます。葉は夏に枯れて、花が終わった後に出土します。

ギョウジャニンニクとイヌサフランの芽生えは、臭いと葉の枚数で見分けることができます。





ギョウジャニンニクの球根（鱗茎）

地下には長さ4～6cmの曲がったラッキョウのような球根があります。外面は網状の褐色の繊維をまとっています。球根にも強い臭いがあります。



有毒

イヌサフランの球根（鱗茎）

地下には茶色の外皮の球根がありません。球根にも有毒成分を含んでいます。球根の内部は白色です。



ギョウジャニンニク（ユリ科）

北海道、本州中部以北の林下に生える多年草です。7月頃、葉の間から花茎を出し、茎の頂上に白い小さな花を多数付けます。

自生地では山菜として食用にされ、名前も深山で修行中の「行者」が食用にすることに由来するそうです。



有毒

イヌサフラン（ユリ科）

ヨーロッパや北アフリカ原産の多年草で、9月頃、地中から長い花筒を出してピンクの花を咲かせます。花が美しく、コルチカムの名で観賞用に栽培されることがあります。

植物全体、特に球根（鱗茎）や種子に、アルカロイドのコルヒチンを含み、誤食するとおう吐、下痢、皮膚の知覚減退、呼吸困難を起こし、重症の場合は死亡することもあります。